

7 「地球未来科」を通して身につけたい力一覧表

地球未来科目標		地域の課題や地球規模の課題についての、課題解決的、体験的な学習を通して、「社会の諸問題に関わろうとする意欲をもち、論理的思考とコミュニケーション力を駆使し、グローバル社会を主体的に生きようとする児童生徒」の資質能力を次のように育成する。											
		(A)「国際的視野で地域を捉える力」・・・地域のひと・もの・ことに関わったり、地域と世界とを比べたりしながら視野を広げ、多様な情報の中から、地域のよさや課題を見つけることができる。 (B)「地域の課題を国際的視野で解決する(工夫する)力」・・・地域の課題を設定し、必要な情報を収集・選択・活用しながら解決の方向性を導き出し、自他の役割を考えながら協力して主体的に行動できる。 (C)「英語をツールとしたコミュニケーション力」・・・自他の違いに気づき、相手に適切に伝えたり相手の言葉を適切に理解したりすることにより、言語や国籍を超えて人間関係を築いたり、国際的視野で思考したりすることができる。											
段階		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
		KEY STAGE1			KEY STAGE2			KEY STAGE3			KEY STAGE4		
視点		身近な体験を通して学ぶ導入期			表現方法や気づきの基礎を作る育成期			学ぶ方法や探究的な態度を育成する充実期			論理的思考力・表現力・課題解決力を育成する発展期		
つけたい力・視点		自分と身の周り			身近な地域			身近な地域と他の地域			世界の中の両院		
つけたい力・視点		具体的に身につけたい力～何ができるようになるか(地球未来科で目指す各段階での具体的児童生徒の姿)											
A 捉える (関わる) 力	1	関心・意欲	・具体的に身近なひと・もの・ことと関わる活動に進んで関わり、自分と社会や自然とのかかわりに関心をもつ。	・「？」を意識して身近なひと・ものことと主体的に関わり、相手意識・目的意識を持ちながら、自分なりに工夫して繰り返し活動する。	・身近なひと・もの・ことと広い視野で向き合い、課題意識を持って自分なりの工夫をしながら繰り返し活動し、解決のために積極的に取り組もうとする。	・世界の中の両院の視点から、設定した課題を解決するための方法を工夫し、主体的、積極的に課題解決のために考えたり、社会参画したりしようとする。							
		生活に生かす・主体的	・自分と身近なひと・もの・ことに関心を持って、意欲的に生活や学習をする。	・自分と地域社会とのつながりに気づき、地域に役立つ活動をする。	・活動内容を自分なりに広げたり、深めたりしながら、他者や地域社会とともに学んだことを実践してこうとする。	・世界の中の両院の視点を持って広い視野で身近な問題と向き合い、解決策を発信し、実社会の問題解決に取り組む。(社会参画)							
	2	協働	・自分たちの良さを出し合って活動する。	・友だちと力を合わせ協働する楽しさを味わい、その良さに気づく。	・友だちや地域の人・関係機関と力を合わせて協働する大切さに気づき、問題の解決に向けての取り組みを成し遂げる喜びを感じる。	・グループや地域の人、関係機関等とつながりを深め、協力して課題解決のための案を練ったり、積極的に活動したりする。							
		他者理解・(国際的視野の芽生え)	・友だちの存在やよさ、周りの人の支えに気づく。	・他者の良さを知り、外国の人を含めて相手の立場に立って考えることができる。	・他者の良さを認め、外国の人を含めて異なる他者を受け入れながら取り組むことができる。	・他者の良さや違いを認め伝え合ったり、活動を通して出会った外国の文化や習慣の違い等を尊重したりすることができる。							
3	自己理解	・集団生活に馴染み、集団における自分自身の存在に気付く。 ・自分自身の成長に気付く。	・振り返りを通して、自分のよさやできること、成長したこと、自分らしさに気付く。	・振り返りを通して、自分の特徴や可能性に気づき、それを発揮するとともに将来の生き方につなごうとする。	・振り返りを通して身に付いた力を自覚することで、自分の可能性に気づき、進路選択等将来の生き方につなごうとする。								
	振り返り(自分自身)	・自分と身近な人々、社会及び自然に親しみの気持ちや愛着をもつ。 ・自分の周りには何があるのかを知り、それと自分とのかかわりを理解する。	・地域には何があるのか、地域の特徴・新しい価値を見つける。 ・地域の暮らしやそこで生活する人たちの思いや願いを知り、連携協力して実現しようとしていることを知る。	・地域の自然・文化・産業等の価値を価値を探るとともに、他地域との違いから、解決すべき課題を見つける。 ・地域の課題を解決・克服するために様々な人が関わり活動していること、他地域と関わりながら価値を高めていることを知る。	・世界の諸地域との比較や社会の変化に目を向け、地域の特性を考察することにより、地域の価値や解決すべき課題を見つける。 ・地域の自然・文化・産業等には限りがあり、課題解決のために様々な人がビジョンを描いて維持・継続・更新のために努力していることを知る。								
4	課題の捉え	・自分と身近な人々、社会及び自然に親しみの気持ちや愛着をもつ。 ・自分の周りには何があるのかを知り、それと自分とのかかわりを理解する。	・地域には何があるのか、地域の特徴・新しい価値を見つける。 ・地域の暮らしやそこで生活する人たちの思いや願いを知り、連携協力して実現しようとしていることを知る。	・地域の自然・文化・産業等の価値を価値を探るとともに、他地域との違いから、解決すべき課題を見つける。 ・地域の課題を解決・克服するために様々な人が関わり活動していること、他地域と関わりながら価値を高めていることを知る。	・世界の諸地域との比較や社会の変化に目を向け、地域の特性を考察することにより、地域の価値や解決すべき課題を見つける。 ・地域の自然・文化・産業等には限りがあり、課題解決のために様々な人がビジョンを描いて維持・継続・更新のために努力していることを知る。								
	事実的知識・概念	・自分と身近な人々、社会及び自然に親しみの気持ちや愛着をもつ。 ・自分の周りには何があるのかを知り、それと自分とのかかわりを理解する。	・地域には何があるのか、地域の特徴・新しい価値を見つける。 ・地域の暮らしやそこで生活する人たちの思いや願いを知り、連携協力して実現しようとしていることを知る。	・地域の自然・文化・産業等の価値を価値を探るとともに、他地域との違いから、解決すべき課題を見つける。 ・地域の課題を解決・克服するために様々な人が関わり活動していること、他地域と関わりながら価値を高めていることを知る。	・世界の諸地域との比較や社会の変化に目を向け、地域の特性を考察することにより、地域の価値や解決すべき課題を見つける。 ・地域の自然・文化・産業等には限りがあり、課題解決のために様々な人がビジョンを描いて維持・継続・更新のために努力していることを知る。								
B 解決する 力	1	課題発見・課題設定 であらう・みつめる (願いを持つ)	・対象との出会いや具体的な活動や体験をとおり、自分の思いや願いをもつ。	・生活や学習の中の疑問や驚きから問題に気づいたり、自分たちが暮らす地域に目を向け、経験や既習事項と関連させて考え、課題を作る。	・自分たちを取り巻く社会に目を向け、経験や既習事項と関連させたり、多面的に見つめたりして考え、課題をつくる。	・自分たちを取り巻く社会に広く目を向けて、対象を多面的に捉え、活動の意図や目的を明確にしたりして課題を設定できる。 (既知の課題ではないか、社会や地域的に意義があるか、自分たちの興味関心や探究したい課題か)							
		情報収集 (活動する)	・家族や地域の人に聞いたり、資料を集めたりする。 ・図書室の本などから見つける。 ・見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどして、直接働きかける。	・目的に応じた対象を決めて、自分たちの身近なところから資料や情報を集める。 ・聞き取りやアンケートで情報を集める。 ・パンフレットやインターネットなどから情報を集める。 ・大切なところにアンダーラインを引く。 ・必要な情報を選んで、メモや写真などの情報を記録を残す。	・目的に応じた対象を決めて、目的に応じた方法で効果的・効率的に資料を集める。(アンケート、インタビュー、実験、観察、実地調査など) ・他者の意見や課題解決の方向性から、必要な情報を取捨選択する。	・説明する、共同作業を行うなど直接的な関わりを持つ。 ・仮説立てと検証の目的を持って、情報収集の計画を立て、実験、観察、実地調査、アンケート、インタビューなどを行う。 ・客観的なデータが得られる方法を選択し、活動や発表の強い論拠となるようにする。							
	3	整理・分析 スキル (感じる考える)	・ウェビングなどの簡単な思考ツールや、比べる・分ける・つなげる・たとえるなどの考える技を使って考える。 ・生活上必要な習慣や技能を身に付ける。	・視点を明確にして 比較、分類、関連づけなどの思考スキルを使い、適切な思考ツールを活用して考える。 ・情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた思考スキル・思考ツールを身に付ける。	・視点を明確にして、他の情報と比較したり体験したことと資料を効果的に関連づけたりして考え、社会・経済などの視点から、多面的・総合的に考える。 ・情報を比較・分類・関連付け、多面的に見るなど、探究の過程に応じた技能を身に付ける。(思考ツールの選択活用→独自の思考ツールや表→思考ツールなしで考える)	・量的な情報を、適切に整理・分析・加工し、相手に分かりやすい見せ方の工夫をする。 ・社会、経済、国際交流などの視点から複雑に絡み合っている情報を、多面的総合的に整理して考える。 ・情報を取捨選択し、他者の意見や主張を建設的に評価したり、多面的なものの見方考え方を身につける。(探究の過程に応じた適切な思考ツールを活用したり、創造したりして、情報を整理する。→思考ツールなしで考える)							
		まとめ 表現 (表現する・行為する)	・言葉、絵、動作、劇化などによって表現する。 ・相手を意識して、(楽しめるように)働きかける。 ・活動を通して気付いたことや楽しかったことなどを、順序よく相手を意識して話す。	・観察や聞き取りなどで調べたことを自分なりにまとめた表やグラフを使って整理して表す。 ・他者の考えを尊重しながら、自分の考えをまとめ、他者にわかりやすく発信する。 ・相手や目的に応じて、多様な方法で表現しようとする。 ・組み立てを考え、中心をはっきりさせて発表する。	・活動の過程や結果、成果などを学んだことを使って、工夫しながらわかりやすく整理して表す。 ・他者の考えを尊重しながら、自分の考えをまとめ、他者にわかりやすく発信する。 ・相手や目的に応じて、効果的な方法を選択して、表現しようとする。 ・資料等を効果的に使ったり、比喩などの表現方法を交えたりしながら、意図を明確にして発表する。	・ツアーや協働プランなど実践的な場面を想定し企画するとともに、効果的に実行する。 ・地域や関係機関・関係者等他者から得た情報や考えを考慮しながら、学んだことの成果・提言など自分の考えをまとめ、発信する。 ・相手や目的・意図に応じ、効果的に表現し、相手の理解を得ることができるようにする。 ・資料を効果的に使ったり、比喩などの表現技法を適切に交えたりしながら、より相手に伝わりやすい話ができるようになる。							
	5	振り返り(学習方法や内容)	・体験や活動を振り返り、次の活動に活かす。	・友だちとともに視点を明確にして活動を振り返り、次の活動に生かす。	・次の活動を意識して、成果や課題をもとに視点を明確にして学習の仕方や活動を振り返り、次の学習に活かす。	・振り返りの中で明らかになったことを論拠として、国際的視野に立った問題の解決のために自分と地域、社会をつなげて考えることができる。							
コミュニケーション(スキル)		・活動を通して気付いたことや楽しかったことなどを、順序よく相手を意識して話す。	・相手や目的に応じて、多様な方法で表現しようとする。 ・組み立てを考え、中心をはっきりさせて発表する。	・相手や目的に応じて、効果的な方法を選択して、表現しようとする。 ・資料等を効果的に使ったり、比喩などの表現方法を交えたりしながら、意図を明確にして発表する。	・相手や目的・意図に応じ、効果的に表現し、相手の理解を得ることができるようにする。 ・資料を効果的に使ったり、比喩などの表現技法を適切に交えたりしながら、より相手に伝わりやすい話ができるようになる。								
C 英語を ツール とした 力	1	表現 コミュニケーション (KEY STAGE1, 2) 慣れ親しみ (KEY STAGE3, 4) speaking writing プレゼンテーション	・配当単語を使った学習活動(歌やチャンツ・ゲームなど)を通して楽しむ。 ・(I like~, What do you ~?) などの簡単な表現を使って、やり取りができる。 ・学校や地域の良さを(I like~, This is ~)などの英語活動等で学習した簡単な表現方法で伝えようとする。	・配当単語を使った学習活動(歌やチャンツ・ゲーム)などを通して楽しむ。 ・(I like~, What do you ~?) などの簡単な表現を使って、やり取りができる。 ・学校や地域の良さを(I like~, This is ~)などの英語活動等で学習した簡単な表現方法で伝えようとする。	・教科で学習した英語表現を使って、簡単な日本語を英語に言い換えてみる。 ・地域の情報(特徴や魅力)や自分の意見をまとめた英語で表現し、伝えることができる。 ・英語での質問に答えたり、相手に質問したりする。	・既習内容を活用しながら表現方法を考え、伝えることができる。 ・ALTや留学生等と国際的視野(柔軟で多面的な思考)で協働プランを実践できる。 ・留学生や観光客との交流を通して、簡単なQ&Aができる。							
		国際的視野	・ALTとの交流を通して、外国の遊びと日本の遊びの似ているところや違いを感じながら楽しむ。	・ALT等との交流を通して、外国との違いや似ているところを見つけたり、地域や自国の文化に親しみを感じたりする。	・ALT等との交流を通して得た国際的な情報をもとに多様な視野を持って考えることができる。	・留学生等との交流を通して、文化や習慣、考え方の違いを尊重し、寛容な態度で広い視野で考えることができる。							